



リレーエッセイ

# ハードルを越えて

おか ども まさ と  
岡留 将隼さん

(霧島市)

文・岡留 洋子さん

将隼と音楽の出会いは1歳半の頃。姉のために買ったキーボードに興味を持ったことがきっかけで、以来、毎日のようにおもちゃ代わりにして遊んでいました。4歳になったある日、いつものようにキーボードで遊んでいる将隼の様子を背中を感じながら洗濯物を干していたときのこと。ふいに耳なじみのある「星に願いを」のメロディが聴こえてきました。最初はてっきりキーボードのデモ演奏曲だと思っていたんですが、振り返ってみると小さな指をいっぱいに広げた将隼が一人で曲を弾いていたんです。きっと何度も何度も繰り返して曲を聴いているうちに、耳と体で自然にメロディや鍵盤の音を覚えていたのでしょう。

将隼は平成9年生まれの17歳。生後すぐに心臓の疾患が見つかって手術を受け、その後、知的障害があることも分かりました。思い悩んで落ち込んだ時期もありましたが、ピアノに向かって一心に音楽を奏でる将隼の姿を見るうちに、次第に家族にも笑顔が広がっていきました。小学4年生になると担任の先生のご指導によって楽譜も読めるようになり、6年生からはピアノ教室に通って、発表会や演奏会など人前で演奏する機会も増えていきました。レパートリーはクラシックからポップス、ロックまでさまざまですが、クラシックでは特にドビュッシーがお気に入りです。音符が並んだドビュッシーの楽譜を、まるで漫画でも見るかのようにニコニコとして読み込んでいることもありました。

最近はいろんなイベントや演奏会などに声をかけていただき、この夏には地元の夏祭りで日頃お世話になっている皆様の前で演奏することもできました。これからも「音を奏でる喜び」と「聴いてもらえる喜び」を感じながら、将隼なりの世界を自由に表現してくれることが私たち家族の願いです。



お父さんが運営委員を務める地元の夏祭りに初出演し、演奏を披露する将隼さん



将隼さんとお母さんの洋子さん。2014年1月に行われた「第2回伊佐・始良地区高等学校ソロ・アンサンブルコンテスト」では最優秀賞を受賞

